

2025年は生成AIが文章やデザインを一瞬で仕上げる一方、わざわざ人が「手で残す」ものに価値が集まりました。直筆のサイン、走り書きのメモ、封書で届く短い手紙。効率では測れない「人の温度」が話題になりました。その温度を、どうやって暮らしや仕事に混ぜ込むか。これが来年からのテーマになりそうですね。

どうなる来季 *Carp*

11月も終盤を迎え、冬支度に慌ただしくされていることと存じます。

今年も残すところあと一ヶ月。 やり残したことがないよう、充実した日々を送りたいものです。そのためにも健康第一。 朝夕の冷え込みにはご用心なさってくださいね。

さて、我らがカープ。

先日発表されたカープ2026年コーチングスタッフ。

石井コーチの新加入はあったものの、打撃コーチは1軍2軍3軍での入れ替え、例年通りシャッフルのみ。 今年も昨年の経験が生かされず、投手陣が終盤失速。 シーズン通しての投手のコンスタントな活躍も課題ではあるが、最重要事項の「点を取る」ことへのテコ入れはなし。 球団は「何も変えるつもりはない＝優勝するつもりはない」という考えなのだろうか。

例えば漫画を読んでいて、「この場面、もっとわかりやすい構図だといいのに」と思うことがある。編集さんは何も言わないのか、この作品についてどれくらいの熱量でアドバイスしているのだろう、とも。 そういうことに自分で気づけて作画に反映させることができるかどうかは、作家自身の力量がもちろんものをいうのだが、客観的に見てくれている人からのアドバイス一つで、さらに良くなることはある。 野球選手とコーチの関係と重なる部分がある。 ヒットを生み出せる人とそうでない人はいる。 プロを目指している人が誰でも野球選手になれるわけもなく、ドラフト指名される人はごく一部。 1軍で活躍できる人はさらに限られる。 その輝きを見出し伸ばすコーチの存在はとても重要だ。

11/12、2025年のゴールデングラブ賞が発表された。 9つのポジションのうち、セリーグは阪神の選手が7名選ばれるという格差をここでも見せつけられた。

昨年は矢野が遊撃手部門、秋山が外野手部門で受賞したことがカープの小さな喜びだったが、今年はゼロ。 矢野は打撃に精彩を欠いたが、守備にも昨年のような力量は感じなかった。 秋山は試合数が昨年の半分以下。 慣れないライトの守備での、らしくない落球も記憶に残る。 もっと秋山センターを見たいが、中村の台頭は今年の数少ない良点だった。

ゴールデングラブ賞は、チーム試合数の1/2以上1つのポジションの守備についていることが条件となっている。 小園はサードで70、ショートで57、セカンドで26試合。 受賞の可能性の土台にも立たせてもらえなかった。 守備でこんなに負荷をかけられて、よくぞ首位打者を取ってくれたものだ。 来季も大いに期待しているが、国内FA権獲得まで後2年。 他チームへの移籍も視野に入れているか…。

(記：上岡)



頑張れカープ！！

エルフォルクはあなたを そしてカープを 全力応援致します！

裏面もご覧ください。